

公益財団法人 アジア保健研修所

2020年度事業計画

(第7期 2020年4月1日～2021年3月31日)

はじめに	2
A. 研修事業	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）開催準備	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) 国際ワークショップ	
2) 研修生によるコミュニティ活動への支援	
①フィリピン	
②パキスタン	
3) アジア各国間での学び合いの促進	
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) アジアの NGO ワーカーと語る集い	
5) スタディツアー	
2. 情報および体験機会の提供	4
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
C. 創立 40 周年記念事業	5
D. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	6

はじめに

アジア保健研修所（AHI）は、2020年12月に創立40周年を迎える。

■40年の変化

AHI設立当時のアジア各国の状況は、政府による保健医療資源が物的にも人的にも甚だ不十分であった。住民が力を合わせ、身近な資源を活用しつつ保健活動を行うことは、農村部の貧しい人びとにとって限られた選択肢であった。そのような中、AHIはそれを牽引する保健ワーカーを育成し、住民の主体的な動きを支援してきた。それと同時に、住民が共に自らの健康と生活向上に取り組む姿に、「健康」のあるべき様をみてきた。

それから40年。国を越えた人、モノ、資金の移動は急激に進み、インターネットがアジア各地の農村に住む人々の手元にまで広がった。労働人口は都市部、海外へと流出し、40年前には3割ほどであった都市部の人口は、10年ほど前に農村部のそれと逆転した。今では子どもと高齢者が農村に残されている。一方日本は、超高齢社会となり、公的制度だけに頼れず、住民の支え合いが必要と叫ばれる一方、住民の減少に加え、住民同士のつながりが薄れ、いわゆる地域力の低下が語られる。

■今こそ「アジアから学ぶ」

こうして今、日本の私たちが抱える課題は、他のアジアの国々に見られるものと大いに共通のものとなった。AHI設立時にいわば謙虚さをもって掲げられた「自立のための分かち合い」というモットーを、今こそ本来の意味において実践できる・実践すべきときが来たのではないだろうか。

事業体としての機能を高め、活動の成果を明確に示すための取り組みを重ねつつ、AHIには何が求められ、何を行うことができるのかを、上述の課題意識のもとに国内外の関係者と共に問い直す作業を進めたい。

A. 研修事業

1. 国際研修

「すべての人びとの手に健康を」を実現するためには、住民にとって保健医療サービスを手に届くものにしなければならない。そのために住民が地域での意思決定に参加できる環境を作り出していくことが重要であり、行政との連携はもとより、多様な分野の関係者と共に動きを作っていくことが求められる。

本年度のこの研修では創立35周年を機に掲げた「次世代育成事業」の一環として、地域活動の若い担い手およびその育成に従事するNGO職員をアジア各国から招き、上記の地域づくりをめざし下記を目的としてリーダーシップの向上をはかる。参加者が

- ・保健・開発課題に関する知識を得る。加えて国際的な動向を分析的にとらえる力を得る。
- ・社会的弱者の参画を促す地域づくりというビジョンを持つ。
- ・それを住民の参加および多様な関係者とともに進めるためのファシリテーションのスキルを向上させる。

当研修会館でのグループ討論を中心としたセッションのほか、広島市や日進市近隣地域を訪問し、関係者との交流から学ぶことも重視する。

*期間 2020年8月30日～10月11日

*場所 AHI会館（愛知県日進市）

*参加者 アジア6～7ヶ国から12～13名。

2. 研修生へのフォローアップ事業

各研修生が帰国後、国際研修で学んだことを生かし、自身の活動が改善したり、新たな活動を発案し実施することができるよう、支援する。そのために随時、元研修生やその所属団体からの相談

や問い合わせに応じる。

また関連分野での情報提供や研修生間の経験共有、あるいはネットワークを形成するために下記の事業を行う。

1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体を対象に、アジア各地および日本での保健・地域開発活動の情報を提供する。毎号テーマを設定し、元研修生や関係団体から原稿を募り、活動経験や意見を共有する場とする。年間2回、各800部発行する。

2) リユニオンセミナー（元研修生会合）の開催準備

元研修生間の情報交換を促すと同時に、新たな学習、ネットワーク形成の機会として、国（地域）別に開催する。開催については、AHIは元研修生や所属団体からの発意を支援し、現地の有志によるチームが企画立案、実施を担う。

各国の元研修生適宜交信を行い、2021年度以降の開催を準備する。

3) その他のフォローアップ

- *AHIとの関係の継続のために、誕生日カードや年末グリーティングカードの送付
- *研修生間の情報共有のためにフェイスブック等SNSの活用

3. 地域保健推進のための協働事業

1) 国際ワークショップ

2018年度に、『すべての政策に保健の視点を』に向け、タイにおける多分野連携の事例から学ぶ』をテーマに、アジア6ヶ国から参加者を得て、タイの全国保健事務局（NHCO）との共催でワークショップを行った。これに引き続き、2020年度には同様のテーマを掲げ、地方レベルでの取り組み

により焦点を当てた内容のワークショップがNHCOによって企画されている。AHIは、タイ以外の好事例が共有されるよう、タイ以外の国からの参加者を紹介するなど、この開催に協力する。

2) 研修生によるコミュニティ活動への支援

下記の2件の元研修生による特定地域での活動に協力する。また、既存の協働事業の終了を控え、ニーズの把握、情報収集を行い、新規の案件の可能性を探る。

① ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志ANAK-NCとの協働

（フィリピン）

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体ANAK-NCによる、地域住民の健康増進とそのため環境整備の活動を支援してきたが、組織・事業運営の弱さが従来から課題である。今後の協働関係について2020年度内に協議を持つこととする。

② 小規模NGOの若手スタッフ育成

元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働

（パキスタン）

参加型研修の実施をおよび参加者および所属団体へのフォローアップを通じた、パキスタン北部の地方のNGOの若手職員やボランティアスタッフのリーダーシップの育成を支援する。今年度は特に、2021年度末の協働事業終了とその後の現地での自立的な運営にむけ、過去の参加者のネットワーク（LIFE）の更なる強化をめざす。

時期：2020年3月20日～29日<予定>

*例年4月に開催していたが、今回は現地での諸事情により2019年度内の開催となった。

場所：パキスタン北部ラホール市内

対象：NGO若手職員・ボランティアスタッフ

約 20 名

③ アジア各国間での学び合い促進

「次世代育成」のニーズを引き続き把握し、関連事業の企画立案を行う。また、同事業の一環として、上述のパキスタンでの研修会に、他国からも若手 NGO 職員を招くために準備を行う。

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

気軽に参加できる場として、また年に一度の恒例行事として、「楽しくアジアと AHI に触れるお祭り」オープンハウスを開催する。

ボランティアで組織する実行委員会が企画、運営を担う。その中で、実行委員の当法人の活動への理解やアジアでの開発活動への関心を高める。また、新規の来場者を得るために、企画の充実とともに幅広く広報に努める。

開催日：2020年9月21日（月・祝）

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月1回、第4土曜日に開催する。その後のAHIとの継続的な関わり（ボランティア活動、プログラムへの参加、財政支援）につながるよう、同講座において各参加者の関心、ニーズの把握に注力し、他のプログラムとの連携を図りながら具体的な情報の提供に努める。

3) AHI 講座

関係者や職員を講師として、当法人に関連した

諸分野のテーマを掲げ、年に2-3回開催する。新規の層、あるいは一度接点を持った人との関係を発展させることができるよう、アジア各国の情報、人びとの暮らしや文化、地域開発のアプローチなど多様なテーマ設定に努める。

4) アジアのNGOワーカーと語る集い

一般市民、学生を対象に、アジア各国の農村部で、健康づくりや地域づくりに携わる国際研修の参加者との交流の機会を提供する。彼らの活動やその背景を知る中で、参加者が自分が暮らす日本の地域社会への課題意識を持つことをねらいとする。2021年9月実施予定。

5) スタディツアー

元研修生及び所属団体の協力を得て彼らの活動地域である農村・漁村部を訪問する。ホームステイなど生活体験を持つと同時に、NGO および住民による開発活動を見学する。訪問先は未定。

定員は20名程度、原則高校生以上を対象とし、2021年3月下旬実施予定。

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、地域の課題、NGO や住民による取り組みを伝える。具体的な情報を提供することに努め、読者が身近に感じられるものを目指す。またボランティア紹介の記事を通して、支援者間の交流の場という性格も高める。

年に5回、各回約3,000部発行。うち1回は手軽さをねらいとし簡便な形（A4両面）とする。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども（主対象：小学校高学年以上）向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同

時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に2回、各4,000部発行。

3) インターネットを活用した広報活動

ホームページ、ブログ、SNSの活動を通して、不特定多数の新規の人たちに向けた情報発信を充実させる。また同時に、他のインターネットの媒体を活用し多様な人たちの間でのやりとりを活性化し、より広く「知られた」存在となることをめざし、新規の支援者の開拓につなげる。

また、英文のホームページに関して、国際研修やインターンに関して関心を喚起するよう改訂を行う

4) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象にNGOの活動の現場を体験する機会を提供する。さらに、多様な人たちの関与を促し、異なる背景や世代の人たちが交流し、学び合う場を作る。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣・イベント出展

要請に応じて、学校や諸団体に職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

「小学校で行う国際理解講座」は、日進市内においては、市との協働事業という位置づけで7校程度行う。加えて、名古屋市内など日進市外の学校についても依頼に応じて実施する。

また、外部の諸団体が行うイベントに出展する。そこでの活動紹介や民芸品の販売等を通じて、新しい人たちと接点を作り、ボランティアや支援者の獲得に努める。

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。〈 〉内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋NGOセンター
- ・名古屋キリスト教協議会
- ・障害分野NGO連絡会〈幹事・研修研究委員〉
- ・日比NGOネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム〈世話人〉
- ・開発教育協会
- ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）

この他、日進市及び近隣地域での市民グループ「にっしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。

また、職員が次の関係団体の役職を務めている。

- ・名古屋YWCA〈評議員〉

3) 他団体との協力による政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

a) 名古屋NGOセンター

東海地域のNGOネットワークである同センターの加盟団体として、また政策提言委員会のメンバーとして、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わる。

b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムに加盟し、カンボジアの開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わる。

C. 創立40周年記念事業

10年後の創立50周年に向け、「アジアの人びとと共に、未来の地域の姿を描く」ために、下記の2

点を重点課題とし、向こう 5 年間でめどに一連の取り組みを行う。

1. 10 年後に向けた組織の強化

-1 次の 10 年 AHI がやるべきことをぶれずに AHI らしさを大切にして活動を続けるための基盤を作る。

国内外の大きな変化の中でニーズを把握し、同時に組織としてめざすビジョン、それに向けた自らの使命・役割を再定義し、そのもとで各事業のねらいや内容を見直す。

この一連の作業を、国内外の関係者（会員、寄付者、元研修生）とともに行う。

-2 10 年後に向け、地域での住民主体の活動に関して新たな方向性を模索する。

国内外で働き手世代が出身の地域を離れ、地域力の低下が進む中、それに対応する国内外の事例を掘り起こし、経験交流を通して当事者が学び合うための場を設ける。

2. 新たな社会との共感性の模索

支援者の著しい減少を考えると、組織や活動が持つ日本社会での訴求力が低下していると考えざるを得ない。アジア各国の人びととのつながりや元研修生の経験など、多様な蓄積の中にある「資源」を再確認し、今日本社会に意味を持つ・共感が得られるようなメッセージは何かを探る。

2020 年度前半に、上述の工程表を作り、一連の作業を開始する。

3. 創立 40 周年記念会

日時：2020 年 12 月中旬

場所：未定

関係者を招き、異なるいくつかの立場からの発題を受け、日本を含むアジアをめぐる 40 年間の変化を確認し、次なる 10 年に向けた節目とする。

D. 法人運営

1. 理事会・評議員会

組織のガバナンスの機関としての評議員会、事業執行を担う理事会、各々の機能を充実させる。

創立 40 周年にあたり、理事会、事務局が中心となり、組織の理念を新たに固め、今後の方向性を検討することを重点課題とする。

2. 賛助会員募集・募金活動

公益事業の遂行のための経年の経費をまかなうために、賛助会員募集および募金活動資金を行う。

***新規会員、特に「ひとつかみサポーター」（月額自動引落による支援）呼びかけの強化**

新規の人と接点ができた際に、丁寧にコミュニケーションをはかり、継続的な関わりにつながるよう働きかけを行う。その上で随時、財政支援を働きかける。

***継続率の向上**

退会者の半数以上を占める自動退会（3 年間納入がない場合）を抑えるために、新たな働きかけを検討し、自動引落の利用を呼びかける。また、利便性を高めるためにオンラインでの送金の仕組みの拡充に引き続き努める。

***「想いを伝える遺言書の書き方講座」**

高齢化に伴い関心の高まりが想定される遺産相続について、司法書士である元職員の協力を得て年に 2 回程度実施する。遺贈寄付につなげられるよう情報提供を行う。

***研修事業の成果の「見える化」**

「寄付」を「社会課題解決への投資」としてとらえる傾向が強まっている中、昨年度から始めた国際研修の社会的インパクトを把握する取り組み（SROI）を完了させ、その結果をもって、企業や

団体等にアプローチする。

***長年支援者への働きかけ**

長年継続の支援者をオープンハウスに招き、感謝の集いを催す。AHI との関係をあためて強くする機会とし、家族や知人を伴った参加を勧め、支援の継承をお願いする。

***企業との協働を通しての働きかけ**

既存の協力企業との関係強化、当該企業の社員へのはたらきかけを検討する。それをもとに新規開拓の可能性を検討する。

■会費収入目標 計 13,000,000 円

a) 新規会費（年会費）

平均 5,000 円× 目標 20 名 =100,000 円

b) 新規ひとつかみサポーター

月額 1,000 円×目標 30 名×8 ヶ月=240,000 円

c) 継続会費 目標 12,660,000 円

2,201 件（年度初め見込）×7,000 円（1 件あたり）×82%（継続率）=12,633,740 円

■寄付収入目標 計 28,000,000 円

a) クリスマス・お正月募金

目標額：15,000,000 円

期間：2020 年 12 月 1 日～2021 年 2 月 28 日

b) 一般寄付

目標額：13,000,000 円

c) 創立 40 周年特別募金

目標額：10,000,000 円

期間：2020 年 7 月 1 日～11 月 30 日

使途：創立 40 周年事業の一環として、日本を含むアジア各国間での訪問・交流実施のため。